

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/6/2作成 (株)新出光

## 【概況】<米国債務上限問題~米国ガソリン需要拡大見通し>

●26日、バイデン大統領は25日、連邦政府の借入限度額である「債務上限」問題を巡る政権と野党共和党の協議について「進展している」と述べた。アデモ米財務副長官も26日、米テレビのインタビューで、協議の行方に関して「確実に合意することを目指す」と強調しました。協議が合意に近づいているとの見方が強まり、投資家らのリスク回避姿勢が幾分後退。米株式相場が上昇し、株式と並ぶリスク資産の原油も買いが優勢となり相場は72.67ドルへ反発しました。

●29日、メモリアルデーのため休場。

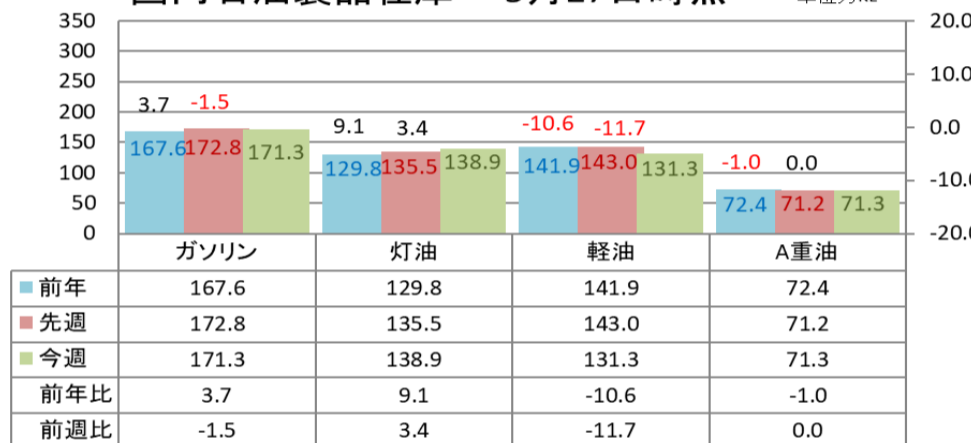
●30日、米連邦政府の借入限度額である「債務上限」引き上げを巡り、バイデン大統領とマッカーシー下院議長(野党共和党)は28日の電話会談で最終合意し、原則合意の詳細を詰め法案化した。債務上限を2025年1月まで適用停止とする一方、引き換えとなる歳出見直しについては、24年度(23年10月~24年9月)と25年度における国防費以外の支出を抑制する内容。米下院規制委員会は30日午後3時に会合を開き、同法案を審議すると発表しました。ただ、同法案の議会通過を巡っては難航も予想されている。米国がデフォルト(債務不履行)に陥る可能性への根強い警戒感から、原油相場は69.46ドルへ反落しました。

●31日、中国国家统计局が31日公表した5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は48.8(前月49.2)と、景気の拡大・縮小を判断する節目の50を2カ月連続で下回りました。指数は市場予想(49.4=ロイター通信調べ)からも下振れ。これを受けて、エネルギー消費大国である中国の需要回復に対する懸念が台頭しました。さらに外国為替市場では、米債務上限引き上げ法案の議会通過への期待などからドル高・ユーロ安が先行。ドル建てで取引される原油の割高感を嫌じた売りも加わり相場は68.09ドルへ続落しました。

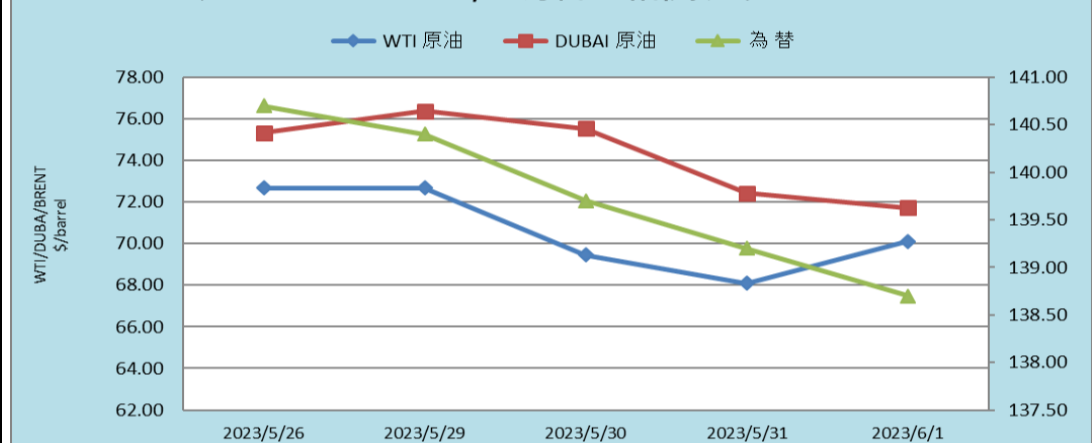
●1日、米債務上限問題を巡る事態の進展も支援要因。米下院は前日夜、連邦政府の借入限度額である「債務上限」の効力停止に関する超党派の法案を可決。米国のデフォルト(債務不履行)回避に向け前進したとの見方から、投資家のリスク警戒感が幾分和らぎました。また、外国為替市場では朝方からドル安・ユーロ高が進行したため、ドル建てで取引される商品の割安感が広がり、原油買いが先行し相場は70.10ドルへ反発しました。

6月2日 16:00現在 WTI原油 70.90ドル 為替 1ドル 139.99円

国内石油製品在庫 5月27日時点 単位:万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ 単位:円



	次回元売変動予測	
	6/8~	元売変動予測
ガソリン	→	+0.7~+1.2
灯油	→	+0.7~+1.2
軽油	→	+0.7~+1.2
A重油	→	+0.7~+1.2
L S A	→	+0.7~+1.2

### 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コスト(OSP含む)は「+2.5円」、補助金は、「-12.5円・90%」、都合「+1.5円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの29日時点の小売価格平均は168.4円となっております。

《6月3日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「-2.0~-2.5円」、激変緩和補助金は「-9.3円・90%」の見込みで、都合「+0.7~+1.2円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「-2.0~-2.5円」  
 ※激変緩和補助金「-9.3円」 前週比+3.2円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】<「ペロブスカイト太陽電池」が7位にランク、次世代エネルギーの主役候補として関心高い注目テーマ>>

みんなと株探が集計する「人気テーマランキング」で、「ペロブスカイト太陽電池」が7位となっています。温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を実現するため、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた動きが活発化している。その主役の一つである太陽光発電で次世代のエネルギー候補として期待が寄せられているのが、ペロブスカイトと呼ばれる結晶構造を持つ化合物を用いる「ペロブスカイト太陽電池」です。産業技術総合研究所によると、ペロブスカイト太陽電池は現在の主流となっているシリコン系太陽電池とは異なり、材料を塗布や印刷で作ることができ、一日に製造できる量が多いことから低コスト化が可能だという。また、シリコン系の母材であるシリコンウエハーは薄くて割れやすいが、ペロブスカイト太陽電池は小さな結晶の集合体が膜になっていることから折り曲げやゆがみに強いことが特徴。加えて、重さはシリコン系の10分の1と軽量なことも長所で、耐荷重の小さい工場の屋根やビル壁面など既存の太陽電池を設置できない場所への導入が期待されています。こうしたなか、積水化学工業は国内最大の発電会社であるJERA(東京都中央区)と、フィルム型ペロブスカイト太陽電池を火力発電所に設置するための共同実験をスタート。また、積水化はNTTデータとフィルム型ペロブスカイト太陽電池を建物外壁に設置した実証実験を行っています。岸田文雄首相が23年4月、「再生可能エネルギー・水素等関係閣僚会議」で、ペロブスカイト型太陽電池を2030年までに普及させる方針を打ち出したことで政府の後押しも期待でき、今後開発の加速が予想されています。

[出典]

① <https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/ed50a0329eef823e5eded050e916fddb2130d>